

愛媛県IPM実践指標モデル(クリ)

	管理項目		管理ポイント	点数	チェック欄(注1)		
	対象	技術			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
病害虫・雑草の発生しにくい環境・樹体の整備	共通	間伐・せん定	間伐・せん定を行い、通風・採光を良くし病害虫が発生しにくい環境を作るとともに、防除作業の効率化を図る。	1			
	病害	病害虫の伝染源の除去	枯枝、枯損樹の除去に努める。	1			
	クリイガ アブラムシ・モ モノゴマダラノ メイガ	害虫の発生源の除去	イガは、クリイガアブラムシやモノゴマダラノメイガの発生源となるため適正に処分する。	1			
	共通	適正施肥	県施肥基準に基づき適切な肥培管理を行う。	1			
防除要否及びタイミングの判断	共通	愛媛県園場周辺環境の把握	自園周辺の植生状況から注意すべき病害虫を把握する。(注2)	1			
		病害虫発生予察情報の確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報や農林水産研究所の発表する農業技術情報等入手し、病害虫の発生状況や天候に応じた技術情報等を確認する。	1			
		病害虫の発生状況の把握	定期的に園内を見回り、病害虫の発生状況を観察及び確認する。	1			
生物的防除	クリタマバチ	導入天敵の保護(必)	導入天敵であるチュウゴクオナガコバチの定着が県下主産地で確認されているため、天敵の保護を目的に羽化時期である3～4月までせん定枝を園内に残す。	1			
物理的防除	クスサン、クリオオアブラムシ	卵の捕殺	冬期には定期的に園内を観察し、クスサンやクリオオアブラムシの卵塊は見つけしだい潰す。	1			
	コウモリガ、カミキリムシ類	幼虫の刺殺	定期的に主幹部を観察し、虫糞が出ている場合は見つけしだい刺殺する。	1			
	雑草	雑草の発生抑止と刈り取り	ナギナタガヤ等の草生栽培による雑草発生の抑止や、草刈機による除草を実施する。	1			

化学的防除	カツラ マルカイ ガラムシ	マシン油乳剤 の使用	冬期にマシン油乳剤を使用する。	1			
	農薬の 使用全 般	適正な散布 方法、量の選 択	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量 となる最適な散布方法を検討した上で使用 量・散布方法を決定する。	1			
		農薬飛散防 止対策	農薬散布に当たっては、無風～弱風時の選 択、ドリフトレスノズル等の飛散が少ない散布 器具の使用等の適切な飛散防止策を講じた 上で実施する。	1			
		薬剤抵抗性 発達遅延策	農薬を使用する場合には、特定の成分のみ を繰り返し使用しない。さらに、当該地域で強 い薬剤抵抗性の発達が確認されている農薬 は使用しない。特にモモノゴマダラノメイガ、 クリイガアブラムシについては当該地域で有 効な農薬を利用する。	1			
その他	土壌浸 食対策	土壌の流亡 防止対策	のり面の保守、草生栽培などによって土壌流 亡の防止に努める。	1			
	作業日 誌	作業日誌の 記録	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状 況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用 時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培 管理状況を作業日誌として別途記録する。	1			
	研修会 等への 参加	研修会等へ の参加	研修会、栽培講習会等に参加し、最新の病害 虫防除技術等を学ぶ。	1			
合計点数							
対象IPM計							
評価結果							

注1：チェック欄では、未実施の場合は0、農薬未使用等当該管理ポイントがチェックの対象外であつた場合は「－」と記す。

注2：周辺の雑木林、管理放棄樹における、モモノゴマダラメイガ、カミキリムシ類などが相当する。